

2019年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト  
(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

成果報告書

令和2年3月  
宮崎県

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、宮崎県が実施した2019年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果をとりまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

## 目 次

1. 地域が有する課題の現状	2
2. 事業実施の目的	2
3. 実行委員会（担当者会）	3
4. 実施事業	
(1) 交流及び共同学習	3
① 延岡しろやま支援学校	4
② 都城きりしま支援学校	7
③ 都城きりしま支援学校小林校	7
④ 清武せいりゅう支援学校	8
⑤ 赤江まつばら支援学校	9
⑥ みやざき中央支援学校	10
⑦ 日向ひまわり支援学校	11
⑧ 日南くろしお支援学校	12
⑨ みなみのかぜ支援学校	14
(2) みやざき心のバリアフリー・フォーラム	14
(3) 障がい者スポーツ関係団体等協議会	15
5. 成果と課題	15

## 1. 地域が有する課題の現状

平成 29 年度スポーツ庁『地域における障害者スポーツ普及促進事業（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）』報告書によると、障がいのある人のスポーツ実施率は、成人で 20.8%、7～19 歳で 29.6%と低く、未実施者の 8 割超の方がスポーツに無関心であるという二極化が生じている恐れがあるという結果が出ている。（2019,10, 特別支援教育研究,東洋館出版社）

このような状況の中、本県では、2026 年に国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の開催が予定されており、障がいのあるトップアスリートの発掘や育成、障がい者スポーツの振興などの役割を明確にしながら組織的に取り組んでいる。

ここで重視しなければならないのは、スポーツを通じた共生社会の実現を目指すという点である。2019 年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツ実施環境の整備事業）」公募要領においても、「スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、障害者が健常者と同様にスポーツに親しめるようにするためには、各地域で抱える課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備を図ることが不可欠である」と示されている。

障がいのある人の継続的なスポーツの実施促進に向けて、障がい者スポーツの振興体制の強化や障がいのある人が身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備を図るためには、障がい当事者以外に対する障がい特性の理解や障がい者スポーツ種目等に関する理解啓発が重要となり、本県における課題の一つとなっている。

## 2. 事業実施の目的

障がい当事者以外や地域等に対し理解啓発を行う際、如何に幅広い世代や多くの方々の関心を得るかが重要となる。しかし、理解啓発のために行うフォーラムなどの参加者は、そのほとんどが、以前から共生社会の実現や特別支援教育等に関心を抱いていた方々という状況にある。このような課題を解決するためには、例えば地域の自治会や関係団体との連携も必要となってくるであろう。

一方で、これから社会に出て行く児童生徒への教育にも目を向けなければならない。現在、社会で活躍されている方々に対する理解啓発を行うと同時に、今後、社会人となる子どもたちに共生社会の実現や特別支援教育等に関心を抱かせる機会を提供することは、共生社会の実現を目指す上で必要不可欠な取組となる。学校教育において種をまいたものが、地域の中での主体的な行動という形で花を咲かせることを思い描いた取組こそ教師に課せられた役割と考える。

そこで、本県では、障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が、一緒にスポーツ活動を行う交流及び共同学習をとおして障がいへの理解を広げながら、個性や多様性を尊重する共生社会の実現を目指した人づくりを推進することを目的として事業を実施することとした。

### 3. 実行委員会（担当者会）

#### (1) 目的

各特別支援学校の交流担当者が交流及び共同学習に関する国及び県の動向を知り、他校の担当者との協議をとおして交流及び共同学習の在り方について理解を深め、心のバリアフリーの推進を図る。

#### (2) 日時

令和元年5月17日（金） 午後1時30分から午後4時まで

#### (3) 出席者

県立特別支援学校13校の学校間交流担当者（23名）

### 4. 実施事業

#### (1) 交流及び共同学習

##### ① 障がい者スポーツの体験学習

特別支援学校と小・中・高等学校等の交流及び共同学習として、障がい者スポーツの体験や合同チームによる練習、ルール変更について検討・実践等を行う。

##### ② 障がい者アスリートとの交流

特別支援学校と小・中・高等学校等の交流及び共同学習として、障がい者スポーツのアスリート等を学校に招き、交流の機会を設ける。

#### 【実施日程】

実施期日		特別支援学校	交流校	備考
月	日			
6	13	延岡しろやま支援学校（肢体） 中学部	上南方小中学校	
		都城きりしま支援学校 小学部	乙房小学校	
	14	都城きりしま支援学校 小学部	乙房小学校	
		みやざき中央支援学校 小学部	那珂小学校	
		延岡しろやま支援学校（肢体） 小学部	上南方小中学校	
	17	日向ひまわり支援学校 中学部	日向中学校	
26	清武せいりゅう支援学校 小学部	清武小学校		
7	5	日向ひまわり支援学校 高等部	日向工業高等学校	
	9	延岡しろやま支援学校（聴覚） 中学部	岡富中学校	
	10	清武せいりゅう支援学校 中学部	宮崎工業高等学校	外部講師
	11	清武せいりゅう支援学校 中学部	清武中学校	
	12	日南くろしお支援学校 高等部	福島高校	
	29	日向ひまわり支援学校 中学部	日向中学校	
9	25	延岡しろやま支援学校（聴覚） 中学部	岡富中学校	
10	11	日向ひまわり支援学校 中学部	日向中学校	

	18	日向ひまわり支援学校	高等部	日向工業高等学校	
	30	延岡しろやま支援学校 (知的)	小学部	岡富小学校	
11	1	日向ひまわり支援学校	中学部	日向中学校	
	5	延岡しろやま支援学校 (知的)	小学部	岡富小学校	
	7	日南くろしお支援学校	中学部	東郷小中学校	
		みやざき中央支援学校	高等部	佐土原高等学校	外部講師
	8	赤江まつばら支援学校	中学部	本郷中学校	
	14	清武せいりゅう支援学校	中学部	清武中学校	
		延岡しろやま支援学校 (知的)	中学部	岡富小学校	
	15	延岡しろやま支援学校 (知的)	小学部	岡富小学校	
	19	日南くろしお支援学校	小学部	東郷小中学校	
	21	日向ひまわり支援学校	中学部	日向中学校	
26	延岡しろやま支援学校 (知的)	小学部	岡富小学校		
12	3	都城きりしま支援学校 小林校	小学部	東方小学校	外部講師
	5	赤江まつばら支援学校	高等部	宮崎農業高等学校	
		日南くろしお支援学校	高等部	福島高等学校	
	6	都城きりしま支援学校	小学部	乙房小学校	
	10	都城きりしま支援学校 小林校	高等部	小林高等学校	外部講師
13	みやざき中央支援学校	小学部	那珂小学校		
1	23	みなみのかぜ支援学校	高等部	宮崎南高等学校	外部講師

## 【各学校での取組】

### ① 延岡しろやま支援学校

延岡しろやま支援学校 肢体不自由教育部門 小学部

[取組概要] 上南方小中学校小学部との交流  
[スポーツの内容] ボッチャ、ハンドアーチェリー

パラリンピックの競技を実際に体験することで、障がいの有無に関わらず、スポーツを共に楽しめることを学ぶことができた。また、協力してボールに手を添え投げるタイミングを計ったり、点数を発表して喜びを共有したりして、障がいに応じての支援の在り方や楽しみ方を知る機会となった。

今後も、有意義な交流及び共同学習とするために、工夫して時間を確保し、両校の協力のもと、更なる活動内容の検討が必要である。

交流の様子



延岡しろやま支援学校 肢体不自由教育部門 中学部

[取組概要] 上南方小中学校中学部との交流

[スポーツの内容] ボッチャ

障がいの有無に関係なく、スポーツの楽しさを共感し、互いに関わることの楽しさを体感することができた。

『延岡しろやま支援学校の先生の「言葉を話せなくても、こうしたいという気持ちはあるからどんどん話しかけてね。」という言葉に、ぼくは「ああそういうコミュニケーションの仕方もいいなあ。」と思いました。』

(上南方小中学校の生徒の感想より)

交流の様子



延岡しろやま支援学校 知的障がい教育部門 小学部

[取組概要] 岡富小学校との交流

[スポーツの内容] ボッチャ

「ボッチャ」というスポーツがあることを知り、障がいの有無に関わらず、共に楽しめることを学習することができた。また、ボッチャを共に楽しみながら様々なコミュニケーションをとったことで、今後、障がいのある方へ積極的に関わろうとする素地を育むことができた。

交流の様子



延岡しろやま支援学校 知的障がい教育部門 中学部

[取組概要] 西階中学校との交流

[スポーツの内容] ボッチャ

ボッチャを実際に体験したことで、パラリンピックの競技について知る機会となった。また、今回の交流において、自分から話しかけようとする生徒の積極的な関わりが多く見られ、これからの生活に生かされる機会となったと考える。

今後、日常生活の中で障がいに対する理解を深めるために、スポーツを活用した交流の回数を増やし、更なる親睦を深める必要がある。

交流の様子



延岡しろやま支援学校 聴覚障がい教育部門 中学部

[取組概要] 岡富中学校との交流

[スポーツの内容] ボッチャ

ボッチャの紹介映像（日本ボッチャ協会 HP）を見た後、正式なルールに近い形でゲームを行った。競技中は、競技者や応援者全員が一級に注目することで、一体感を感じることができたとともに、個々への関心をより一層高めることができた。共に活動することで、障がいの有無に関係なく、同じ中学生という意識が育ってきたと感じた。ボッチャをとおして広く障がいについて考える機会となった。

交流の様子





## ② 都城きりしま支援学校

都城きりしま支援学校 小学部

[取組概要] 乙房小学校との交流  
[スポーツの内容] ボウリング、リレー

ボウリングやリレーなどのスポーツを通じた交流を深めるなかで、乙房小学校の児童が、熱心に本校児童の話をお聞きしようとしたり、わかりやすく説明しようとしたり、できるまで待ってくれたりする姿が見られた。

交流を通して互いの児童が感じたことを日常生活の中、さらには社会で生かしていけるように継続して取り組んでいきたい。

交流の様子



## ③ 都城きりしま支援学校 小林校

都城きりしま支援学校 小林校 小学部

[取組概要] 東方小学校との交流  
[スポーツの内容] ボッチャ

障がい者スポーツの普及振興を図る活動を行っている「NPO 法人あゆみの会サンライズ」の方を講師として招き、ボッチャのルール等に関する説明を受けた後、両校の混合チームで協議を行った。実際に体験することで、障がいの有無に関わらず一緒に楽しめるスポーツに関心をもつことができた。

うまく投げられるとお互いに歓声を上げたり、遠くに外れると残念がったり、ボールを手渡したりという、自然にコミュニケーションがとれるスポーツを通じた交流の良さを感じた。

交流の様子



都城きりしま支援学校 小林校 高等部

〔取組概要〕小林高等学校との交流

〔スポーツの内容〕ボッチャ

※宮崎県ボッチャ協会 柳田哲志氏を招いての交流

交流後のアンケートには、障がいの有無に関わらず楽しめるスポーツについて多くの感想が見られた。共に楽しめるスポーツの存在を知ることが、今後、障がい者スポーツが普及するきっかけとなり、共生社会の実現に繋がっていくと考える。

『最初は障がいのある方たち向けのスポーツだから、あまり楽しめないのではないかと思っていたが、体験してみるととても楽しかった。障がいの有無に関わらず楽しめるスポーツをもっとやってみたいと感じた』(小林校高生徒感想)

交流の様子



④ 清武せいりゅう支援学校

清武せいりゅう支援学校 小学部

〔取組概要〕清武小学校との交流

〔スポーツの内容〕ボッチャ、ボウリング、風船バレー

ボウリングや風船バレーなど、清武小学校の児童がこれまでも経験したことのあるスポーツが、本校の児童が取り組めるように、道具やルールなどで工夫されていることを知り、身近な人の協力や設備、道具等の様々な工夫があることで、楽しく生活できるということへの理解に繋げることができた。

今後、交流学习が特別な活動にならないよう検討していく必要がある。

交流の様子



清武せいりゅう支援学校 中学部

〔取組概要〕清武中学校、宮崎工業高等学校との交流

〔スポーツの内容〕ハンドサッカー、ボウリング

※日本ハンドサッカー協会 田中颯一氏を招いての交流

日本ハンドサッカー協会の田中颯一氏を招いて、交流を行った。ゴールしたことが理解しやすくなり、さらなる喜びが得られるように、宮崎工業高校の生徒が、課題研究としてゴール時に音と光を出す装置を製作した。スポーツを通じての交流が「技術面で支援できることはないか」と考えさせる機会となり、環境整備が具体化した。今回の取組により、共生社会の実現を目指す上での素地を育むことができたと考える。

交流の様子



⑤ 赤江まつばら支援学校

赤江まつばら支援学校 中学部

〔取組概要〕本郷中学校との交流

〔スポーツの内容〕ボッチャ、スカットボール、カローリング、シャッフルボード

ボッチャ以外にもスカットボールやカローリングなど、様々なニュースポーツを知る機会となった。互いに協力し、十分なコミュニケーションがとれるというスポーツの良さを生かした交流を行うことができた。また、本郷中学校の生徒の感想には『テレビで見たボッチャをやってみたいと思っていた。実際に体験できて嬉しい』と日頃から関心を抱いていることを知ることができる内容もあった。互いに楽しみ、共に活動できるスポーツを知る機会を増やすことが重要と考える。

交流の様子



赤江まつばら支援学校 高等部

[取組概要] 宮崎農業高等学校との交流  
[スポーツの内容] ボッチャ、ドローン（フライングディスク）

競技を行う前に、パラリンピックでのボッチャ競技の映像を見ることで、実際の競技の様子や応援の盛り上がりなど臨場感を味わった。競技中には、お互いに協力し合い、教え合う中で相手の人権や立場を尊重し、人を思いやる心が育成された。共に競技を行うなかで、コミュニケーションが自然と発生するというスポーツの良さを生かした交流を行う事ができた。また、障がいにより手指のみ動かすことが可能な生徒がフライングディスクではなく、ドローンを操作し参加する工夫を行ったことで、他の生徒と一緒に活動することができた。

交流の様子



⑥みやざき中央支援学校

みやざき中央支援学校 小学部

[取組概要] 那珂小学校との交流  
[スポーツの内容] ボッチャ、フライングディスク  
※宮崎県フライングディスク協会 中武久美子氏を招いての交流

宮崎県フライングディスク協会の中武久美子氏を招いて交流を行った。事前学習でボッチャとフライングディスクを練習してから交流に臨んだので、意欲的に活動に参加することができた。また、両校の混合を編制し、チーム対抗戦を行ったことで、子どもたちが協力し合い、自然に触れ合う機会とすることができた。

交流の様子



みやぎき中央支援学校 高等部

[取組概要] 佐土原高等学校との交流

[スポーツの内容] リレー、5分間走

※北京パラリンピック陸上競技 オーストラリア代表選手 スピード・イーアン氏を招いての交流

スピード・イーアン氏の今後の目標を聞いたり、実際に走る姿を見たりするなかで、生徒から歓声やうなずきが生じるなど、生徒の心が動いている様子が見られた。また、スポーツを通じた活動を共にすることで共感が生まれ、また次につながることを実感した。「知ること」「接すること」が「心のバリアフリー」の第一歩であり、今後も継続して取り組んでいくことが重要と考える。

交流の様子



⑦ 日向ひまわり支援学校

日向ひまわり支援学校 中学部

[取組概要] 日向中学校との交流

[スポーツの内容] ボッチャ、風船バレー、ボウリング

オリンピックやパラリンピックの開催が間近となっていることもあり、中学生の関心も高く、積極的な関わりが見られた。また、競技中、支援学校の生徒の方がうまくできたり、リードしたりする場面が見られ、将来の共生社会の一員として、お互いを尊重し、理解する素地を育むことができた。

お互いの存在を理解し、分かろう、関わろうという気持ちをもてたことは、これからの積極的なコミュニケーションに繋がると考える。

交流の様子



日向ひまわり支援学校 高等部

〔取組概要〕日向工業高等学校との交流

〔スポーツの内容〕ゴールボール、卓球バレー

生活単元学習や保健体育の授業と関連づけて事前学習を行ったことにより、本校の生徒たちが見通しをもち、主体的に活動に参加することができた。

また、本校の生徒が、日向工業高校の生徒にルールを伝えたり、競技の仕方を教えたりする場面も見られ、互いに積極的に関わり合う機会となった。コミュニケーションがとりやすいというスポーツの利点を生かした交流を行うことができた。

交流の様子



⑧ 日南くろしお支援学校

日南くろしお支援学校 小学部

〔取組概要〕東郷小中学校、鶯戸小中学校との交流

〔スポーツの内容〕ボッチャ、ダンス

車椅子の児童への接し方や押し方をお互いに言葉を掛けて確認する姿や目の高さを意識して言葉を掛ける姿、子供に確認しながらランプの高さを考え角度を工夫する姿などが多く見られた。

他の障がいのある児童生徒への適切な支援や協力の仕方についての理解につながられたのではないかと考える。今回の学習が将来に繋がっていくという交流教育の意義を改めて感じた。

交流の様子



日南くろしお支援学校 中学部

[取組概要] 東郷小中学校、鶉戸小中学校との交流

[スポーツの内容] フライングディスク

鶉戸中学校とのサーフィンを通しての交流は、雷雨により中止となった。東郷中学校とは、アキュラシーやディスタンス、ディスクゲッターなどフライングディスクを通しての交流を行った。チームで作戦を考えたり、投げ方を教え合ったり、得点したらハイタッチを行い喜びを分かち合うなど、楽しみながら交流を深めることができた。生徒の実態に関わらず、互いに楽しめるというフライングディスクの良さを生かした交流を行うことができた。

交流の様子



日南くろしお支援学校 高等部

[取組概要] 福島高等学校との交流


[スポーツの内容] フライングディスク、ボウリング

福島高等学校が主体となり、交流活動を進めてもらったことにより、内容や説明の仕方の工夫、支援の在り方や必要性を感じてもらえる機会とすることができた。また、事後アンケートには、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じたコミュニケーションの楽しさを感じたという感想があった。さらに、交流を通して触れ合うなかで、障がいのある方に対するイメージや関わり方についての感想が書かれており、理解啓発に向けてよりよい機会となったと考える。


交流の様子



⑨ みなみのかぜ支援学校

みなみのかぜ支援学校 高等部	
<p>[取組概要] 宮崎南高等学校との交流                  [スポーツの内容] 陸上競技（駅伝・短距離走等）                  ※ロンドン、リオパラリンピック出場 蒔田沙弥香氏を招いての交流</p>	
<p>パラリンピックアスリートとの交流は、本校及び宮崎南高等学校、両校の生徒にとってパラリンピックについて知る機会となり、アスリートの実力を間近に見ることが感動となり、心が揺さぶられる経験となった。また、両校の生徒が力を合わせ共に競技することにより、障がいの有無に関わらずスポーツを共に楽しめることを理解することができた。</p>	
交流の様子	
	

(2) みやざき心のバリアフリー・フォーラム

目的	<p>広く一般県民を対象とし、特別支援学校と高等学校との交流活動の取組について紹介を行うとともに、障がいのある方との体験活動や交流をとおして、共生社会の認識を深め、地域全体での障がい者理解を図る。</p>
期日	<p>令和元年12月21日（土） 午後1時30分から午後4時まで</p>
会場	<p>宮崎市若草通商店街</p>
<p>本フォーラムにおいて、清武せいりゅう支援学校と宮崎工業高校がハンドサッカーをとおして行った交流を紹介した。また、宮崎工業高校の生徒が、清武せいりゅう支援学校の生徒のために製作したゴール時に音と光を出す装置を実演披露した。</p>	
	



### (3) 障がい者スポーツ関係団体等協議会

#### ① 目的

障がいの有無にかかわらずスポーツに親しめる環境を整え、スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、関係団体や各課における取組内容について情報を共有するとともに、障がい者スポーツ推進の在り方について協議する。

#### ② 日時

令和2年1月21日（火） 午前10時から正午まで

#### ③ 出席者

- ア 宮崎県スポーツ推進委員協議会
- イ 宮崎県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
- ウ 宮崎県障がい者スポーツ協会
- エ 宮崎県障がい福祉課
- オ 宮崎県教育庁 スポーツ振興課
- カ 宮崎県教育庁 生涯学習課
- キ 宮崎県教育庁 特別支援教育課

## 5. 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 特別支援学校と小・中・高等学校等との交流及び共同学習

- ア 障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒と一緒にボッチャなどのスポーツを体験したことで、障がいの有無に関わらず、誰でも楽しめるスポーツの存在を知る機会となった。
- イ お互いを理解し、尊重し、認め合う共生社会実現の素地を育むことができた。

#### 【高等学校生徒の感想（抜粋）】

- ・最初は、ボールを投げるだけの競技、障がいのある方々向けのスポーツで、あまり楽しめないのではないかと思っていたが、体験してみると、とても楽しかった。障がいのある方、障がいのない方、どんな人でも楽しめるスポーツなので、これからもいろんな人とやってみたいと思った。
- ・障がいのあるなしに関係なく楽しめるスポーツなのでもっと広がるべきだと思う。
- ・障がいがあってもなくても、対等に楽しくゲームができるということを知った。

#### 【教師の感想（抜粋）】

- ・スポーツをとおしての交流は、名前を呼び合う機会が多く、自然な形でハイタッチをするなど、距離を縮めるコミュニケーションがとりやすかった。
- ・パラリンピックの競技を実際に体験することで、スポーツを共に楽しめることや、障がいに応じた支援の在り方、楽しみ方を学習することができた。
- ・お互いの存在を理解し、分かろう、関わろうという気持ちをもてたことは、これからの積極的なコミュニケーションに繋がると感じた。
- ・一人一人がそれぞれの方法で自分の意思を伝えたり、感情を表したりしていることを知る機会となった。
- ・一人一人の特性に応じてルールや道具が工夫されていることを知る機会となった。

② スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」障がい者スポーツ関係団体等協議会

ア スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、関係団体や各課における取組内容について情報を共有することができた。

イ 情報共有の重要性や総合型クラブを活用するといった卒業後の環境作りなど、障がい者スポーツ推進の在り方について協議を深めることができた。

(2) 課題

① 特別支援学校と小・中・高等学校等との交流及び共同学習

ア 継続的な取組としていくことが必要である。

イ ボッチャ以外にも、卓球バレー、スカットボール、カローリング、シャッフルボード、ハンドアーチェリーなど様々なスポーツを体験させ、共に楽しむことができるスポーツを幅広く知る機会とする必要がある。

【教師の感想（抜粋）】

- ・ 交流の前後には、障がいのある友人について関心を示し、気持ちを寄せているようであるが、時間とともにその気持ちは薄れていく。継続した連携が必要である。
- ・ 交流が「特別な活動」にならないようにしていかなければならない。
- ・ 交流の時だけでなく、その後に繋がる交流の在り方を工夫する必要がある。

② スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」障がい者スポーツ関係団体等協議会

ア それぞれの取組がどのように関連づけられるのか整理し、具体的な連携の在り方を協議する必要がある。

イ スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、より多くの方々の関心や理解を得る具体的な方策について検討する必要がある。